開講大学:立命館大学	科目名	京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み	チーム名

連携先世界遺産： 清水寺
京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み

（本科目が取り組んだ課題・改善事項等）

座学・フィールドワークを通して、文化財の価値の重要性を学び、守るために、地域の災害危険性について考え、具体的な検討を行う。

■受講生

石川 理沙（立命館大学・法学部・4年生）、伊福部 司（立命館大学・理工学部・3年生）、大屋敷 俊介（立命館大学・情報理工学部・4年生）、奥村 麻結子（同志社女子大学・現代社会学部・2年生）、柏瀬 岳（立命館大学・経済学部・4年生）、川野 誉高（立命館大学・理工学部・1年生）、川向 梨央（京都産業大学・経済学部・2年生）、岸田 彩加（立命館大学・法学部・4年生）、黒木 綾人（立命館大学・文学部・2年生）、後藤 光（立命館大学・法学部・4年生）、阪本 泰人（立命館大学名・理工学部・3年生）、高橋 心（立命館大学・産業社会学部・1年生）、多賀谷 将司（立命館大学・理工学部・3年生）、中村 一貴（立命館大学・理工学部・3年生）、中村 隼也（立命館大学・理工学部・3年生）、中村 吉伸（立命館大学・経済学部・2年生）、中山 紗貴（立命館大学・政策科学部・1年生）、八京 誠（立命館大学・文学部・3年生）、濱野 百花（立命館大学・文学部・2年生）、藤井 穂乃華（同志社女子大学・薬学部・2年生）、宮原 亮介（立命館大学・理工学部・4年生）、山本 帆栞（立命館大学・理工学部・1年生）、横田 幸佑（立命館大学・理工学部・3年生）、吉田 心（立命館大学・経済学部・2年生）、ZHOU Wenxin（立命館大学・経済学部・2年生）

■担当教員

大窪 健之（立命館大学・理工学部・教授）

活動目的・概要

世界文化遺産である清水寺は、年間400万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院の1つです。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備を座学とフィールドワークを通じて学びます。清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として「清水寺警備団」が結成され、現在に至っています。また、地震による大火から守るために、京都市が平成18年度から国宝や重要文化財が集積する東山区清水・弥栄地域において、地域力を最大限に発揮して防災力を強化する「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開しています。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行い、境内と周辺地域の災害リスクに関するグループ調査を行います。最後に「災害図上訓練DIG」を行い、文化遺産を核とした地域の災害脆弱性と対策について幅広い観点から考察し、グループごとに発表します。

フィールドワーク

災害図上訓練

成果発表

◆主な活動

2023.5.21インタビュー・プレゼンテーショントレーニング
2023.9.9 講義ガイダンス＋歴防研究所の活動紹介
2023.9.9 **清水寺とその災害について1**
（災害史を古文書から読み解く）
2023.9.9 **清水寺とその災害について2**
（近年の災害とその対策：地震・土砂・火災）2023.9.10 **清水寺境内の見学および設備の実技体験**
（防火水槽、ドレンチャー、放水銃等）
2023.9.10 清水寺とその歴史、および清水寺と地域の防災活動に向けた取り組み
2023.9.10 清水寺周辺地域の防災水利整備事業の概説および（翌日の）災害図上訓練の概要
2023.9.11 フィールドワーク1＊各地において事業の説明（市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc）
2023.9.11 フィールドワーク2＊グループ毎に現地調査（地域の災害危険性、防災資源、etc）
2023.9.11 災害図上訓練1（実技・地震火災WS実施）
2023.9.11 災害図上訓練2（実技・その他の災害WS実施）
2023.9.12 成果発表準備（班ごとにPPT作成）
2023.9.12 災害図上訓練3（成果発表＋総括・講評）
2023.9.12 全体報告会準備（全体で1つのPPT原案作成）
2023.10.15 成果報告会に向けた具体化の作業1
2023.11.18 成果報告会に向けた具体化の作業2
2023.11.24 成果報告会に向けた具体化の作業3
2023.12.10 成果発表

活動の成果

本講義の中で、受講生が着目した「清水地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通して、各班からは【表1】のような多くの問題点が挙げられました。その中でも特に「初期消火の際の水源の不足」や「避難誘導の際の」が懸念され、重大な問題であることが認識されました。そして、こうした問題を念頭に災害図上訓練（DIG）を行った結果、初期消火を行うためにも、円滑な避難を実現させるためにも、どのような課題点があるのかを各班ごとに考えることができたのではないかと考えています。このように、文化財や地域を守るために、受講生自身が地域の災害危険性について調査・考察を行うことで、文化遺産を守りつつも、次世代へと伝えることの実情と難しさをより学ぶことができたのではないかと思います。

－ 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 －　【表1】

1班：入り組んだ建物の中で消火が難しいところがある。

2班：観光客や車で緊急車両がすぐに到着できない→茶碗坂などの広い道を塞がない工夫が必要

3班：避難した時に人が集中してしまう→観光駐車場以外の避難スペースが必要

4班：海外の観光客への避難誘導が難しい→言語の対応や表示など

本講義の中で、受講生が考えた「防災上の課題における提案」

本地域における防災上の課題【表1】に対して、本講義のフィールドワーク・災害図上訓練を通して、各班から【表2】の様な多くの提案アイデアが挙げられました。

－ フィールドワーク・災害図上訓練から認識された本地域の防災上の課題における対策 －　【表2】

1班：初期消火：一般家屋にドレンチャー等の設置、避難誘導：民間の避難拠点化（豆腐店や広場）

2班：初期消火：消火栓の追加とデザイン工夫、避難誘導：足元灯で避難ルートを表現

3班：初期消火：蓄光素材とデザインや素材の工夫、避難誘導：サインの国際化とスピーカー設置

4班：初期消火：緊急車両の進入ルート確保、避難誘導：混雑対策と多言語化やスピーカー設置

これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われます。

活動を振り返って

- 四日間の講義を通して、観光地としての視点しか持ってこなかった場所を災害というフィルターを通してみてみると、リスクが非常に大きな場所であることに気づきました。これまで旅行の際には、観光地の避難先やホテルの避難経路などの確認をしたことがありませんでしたが、今後は、ホテルの部屋に入ったときはホテルの避難経路や非常口の場所は確認する習慣を癖づけていきたいし、観光地で地図案内を確認する際は避難場所の位置をさっと確認する癖をつけていこうと思います。
- 普段は見ることのできない清水寺の防災設備（放水銃等）を見学することで清水寺の災害対策の意識の高さにとても感銘を受けました。
- フィールドワークや災害図上訓練を通して、備えられた防災施設がどのようにという防災の難しさを学ぶことができました。課題を1つ1つ解決していくことで、自ずと地域の防災力は向上していくとは思いますが、決して100%の安全には至らないことを学ぶことができました。
- 災害図上訓練を行い、十分だと思っていた清水寺の火災対策にも課題が多数あると気づくことができました。実際に周辺を見て回るだけでは気づくことができない問題点を発見することができ、図上訓練の意義を学ぶことができました。
- 「防災」に加えて、清水寺の本堂や消火設備、周辺地域を含めた歴史や慣習など、普段は中々知ることがのできない様々な情報を得ることができました。特に先生方による境内のご説明を受けながら、実際に見て回るというのは非常に貴重な経験で、清水寺に対する愛着心が高まりました。

担当教員からのコメント

大窪　健之

昨年度と大きく状況が変わり、晴れてコロナ禍を乗り越えての開催となった。本講義のカリキュラムは、その半分以上が現地視察やワークショップの演習形式であるため、とりわけ感染症拡大対策が大きな影響を及ぼしていた。また4日間の夏季集中形式のため一日でも休講となると成立が困難になることから、荒天に備えて屋内外のプログラムを入れ替える柔軟さが要求された。今年度も無事に所定の日程を完了できたことは、支えてくださった清水寺の皆様、特別講義を提供いただいた講師の先生方、「明日の京都」事務局やTAスタッフの方々のご尽力の賜物であり、心より感謝を申し上げたい。受講生の皆さんも、毎朝の坂登りと濃密なスケジュール、文化的価値と防災の両立という難題に大変熱心に取り組んで成果を挙げていただいた。今後もぜひ清水寺と京都のファンであり続けていただければ幸いである。

活動資料

▲消火設備の実演

▲座学の様子

▲フィールドワーク

▲災害図上訓練の様子

▲発表資料作成の様子

▲清水寺の見学